

ニッケイ俳壇

(692)

星野 墓 選

○アマゾンと云ふ額縁に虹の映え
マナウス 東 比呂

ピラルクがメインの高床レストラン
ツクナレの丸焼き刺身浜夕餉

○こよなく愛するアマゾン河を額縁にした様
な美しい虹が立った。樹海の上にも大河の横
にもとアマゾンの虹を讚美する作者、又その讀
美はアマゾンの魚介にも及ぶ。

日傘樹下日陰れば夕カ力の屋台立つ
拓士の名連なる碑日傘樹下

アマゾンに五年欠かず餅飾る
○リオネグロはマナウス通りアマゾン大河
に合流す。先頭その河にブラジルで一番長い3
600メートルの橋が完成し大統領が渡り初め
した。虹色のピラニアがそこには居ると云う。

○クアレスマ庭にどうり花咲かせ
アマゾンに五年欠かず餅飾る

○これまで、どうりとクアレスマが咲く。と
云つた人を知らない。木丈の低いクアレスマ
は、本当にどうり咲いて居た。表現力に感
心した。

○樹海の峰を四方に虹の立つ
対岸の峰も四方に虹のたつ
滝落ちる七色虹に白しふき
テンダーにピラルク千せばウルフ舞ふ

○パリチンスは、アマゾーナス州の端のやや
マナウスの対岸にあり、大河の波が岸を打つ処
にある様だ、その地に立つ虹もマナウスの虹同
様に大きくて美しい様だ。その地で高拓生全員
が亡くなつた。作者は残る高拓生の未亡人であ
る由。

○サンバウロ
西山 淳子
花ことりボンで分け朝顔の次の命の種を探りた
り道の左右競いて濃淡に今を盛りとジャカチロンの
花ひらのぼとぼと落ちて月下香小皿に置きて香り樂
しむ

○評 俳句で的確に捉らえる目は、無駄のない言
葉使いに表現されている。4首目の達觀が良い。

大都会の植物園の森深く静もる池に睡蓮の花
ふと忘れると思いつ出す日々の中歳相応と語うており
花ひらのぼとぼと落ちて月下香小皿に置きて香り樂
しむ

○評 俳句で的確に捉らえる目は、無駄のない言
葉使いに表現されている。4首目の達觀が良い。

切り絵なる雛人形に雪洞の灯りほのかな便りに和む

二ッケイ歌壇
(413)

上妻 博彦 選

○サンバウロ 西山 淳子
花ことりボンで分け朝顔の次の命の種を探りた
り道の左右競いて濃淡に今を盛りとジャカチロンの
花ひらのぼとぼと落ちて月下香小皿に置きて香り樂
しむ

○評 俳句で的確に捉らえる目は、無駄のない言
葉使いに表現されている。4首目の達觀が良い。

大都会の植物園の森深く静もる池に睡蓮の花
ふと忘れると思いつ出す日々の中歳相応と語うおり
花ひらのぼとぼと落ちて月下香小皿に置きて香り樂
しむ

○評 俳句で的確に捉らえる目は、無駄のない言
葉使いに表現されている。4首目の達觀が良い。

切り絵なる雛人形に雪洞の灯りほのかな便りに和む

虹眺む夫は無言で妻はしやぐ
ジヤラキ割き塩して干しぬ母子して
ガスコンロに拍手厨の初仕事
愛車にも小さき飾り無事祈り

丘の上白虹の病院囲む虹
イグアスの滝に立つて五月の虹
ジャラキを食べればこの地去り難し
河望む力ワフーのテープル日傘樹下

ネグロ河航く先にかかる虹の橋
雨去つて熱帯雨林にかかる虹
初日の出大河の底から生れる
初夢は良い事ばかり年女

日傘樹下車椅子寄せ汗拭く
岸釣はピラニアばかり飽きもせず

バルサ行く大河またぎて虹立てる
お年始にタンバキ三尾頂きし
日傘樹下車椅子寄せ汗拭く
揚げなに味しみこませ夏料理

輪になりて祈り篤く初仕事
朝日さりリース飾り迎ゆ
モテシカてふソクナレ料理に舌鼓

杉の香の箸添へられ冷奴
真白きは似合はなくなりて夏衣

笑ひ皺二増えたる初鏡
炎天にまだ影の濃し傘寿かな
桜の木の落葉度支か黄に病める

初句会変らぬ人の新らしき
そびえ立つビル小さく見ゆ雲の峰
いつになき優しき雨音夜の秋

桜の木の落葉度支か黄に病める
サンバウロ

初句会正生れはわひとり
異人嫁混血孫も雑好き
アセローラ揃ぐ夕日に映えて尚赤き

教師の日我が三人の教員居り
サンバウロ

初句会正生れはわひとり
異人嫁混血孫も雑好き
アセローラ揃ぐ夕日に映えて尚赤き

教師の日

